

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録や通常の診療で行った検査の後に保管されている残った試料（血液・髄液など）を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報や保管されている試料（血液・髄液など）を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	髄液細胞数算定におけるズイエキチェッカーハヤシの基礎検討
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 杉山隆 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	(診療科名) (職名) (氏名) 診療支援部 臨床検査技師 松本雄貴
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2028年12月31日
対象となる方	2024年9月から2027年12月までに当院へ提出された入院外来患者脳脊髄液の検査を実施された患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、既往歴、身体所見、血液検査データ、髄液検査データ等 (利用する試料) 通常の診療で使用した後に残った試料（血液・髄液など）
研究の概要 (目的・方法)	現在、髄液細胞数算定にはサムソン染色が用いられているが、単核球と多形核球を分類するには染色性と細胞形態から判定するため技量が求められる。そのため、慣れていない技師では、報告の遅延もしくは誤報告を生じる場合がある。ズイエキチェッカーハヤシは、染色原理にペルオキシダーゼ反応を利用しており、髄液白血球中の好中球を特異的に染めることにより単核球と多形核球を容易に分類することができる。このことから、慣れていない技師でも容易に髄液白血球の分類が出来るため負担軽減や精度向上に繋がる可能性がある。ズイエキチェッカーハヤシの基礎的検討と時間外検査での有用性について検証することを目的とする。
個人情報の保護について	この研究で収集される試料・情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします

	す。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。また、保管される試料・情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院検査部 松本雄貴 791-0295 愛媛県東温市志津川 Tel：089－960－5620